

研究業績リスト

著者	北海道医療大学看護福祉学部
雑誌名	北海道医療大学看護福祉学部紀要
号	15
発行年	2008-12-20
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00006260/

研究業績リスト

(2007年10月1日～2008年9月30日)

人間基礎科学講座

教授：ハワード・N・ターノフ，館山 碧

森田 勲

准教授：薄井 明，小澤 次郎

講師：櫻井 潤，鎌田 禎子

(1) 著書

- 1) 薄井 明編：『社会福祉士精神保健福祉士国家試験 [完全対策] 必修事項と範例問題2009』，株式会社みらい，2008，7.
- 2) 小澤次郎：「おばさん」，「おふく」，「思い違い」，「女下駄」，「帰ってきた女」，「禍福」，志村有弘編，『藤沢周平事典』，勉誠出版，81-82，82-83，86-87，89-90，91-92，104-105，2007，12，10.
- 3) 小澤次郎：「阿部保」，「小原真紀子」，「北海道の詩史」，「湯浅半月」，「横瀬夜雨」，安藤元雄・大岡信・中村 稔監修，『現代詩大事典』，三省堂，22，132，599-600，690，693-694，2008，2，15.
- 4) 小澤次郎：小説集「鮎吉・船吉・春吉」，同「泥雀の歌」，小説「鮎吉・船吉・春吉」，同「泥雀の歌」，人物「滝井孝作」，同「多田不二」，葉山修平監修，『室生犀星事典』，鼎書房，113-114，114，231-232，233-234，411-412，414-415，2008，7，30.
- 5) 鎌田禎子：「愚か者の物語——エドガー・アラン・ポーの『タール博士とフェザー教授の療法』」，長尾輝彦編著，『文学研究は何のため——英米文学試論集』，北海道大学出版会，205-222，2008，3.
- 6) 櫻井 潤：「医療保険」，渋谷博史・根岸毅宏・木下武徳編著，『社会保障と地域』，学文社，60-85，2008，4.
- 7) 櫻井 潤：「介護保険」，渋谷博史・根岸毅宏・木下武徳編著，『社会保障と地域』，学文社，86-110，2008，4.

(2) 原著論文

- 1) 森田 勲，須田 力，山口明彦：「高齢者の除雪能力に対する筋力トレーニングの効果」，北海道医療大学看護福祉学部紀要，49-56，2007，12.
- 2) 須田 力，森田 勲他：「成人男子の人力除雪時の筋活動」，北方圏福祉研究所年報，43-

51，2007，12.

- 3) Y. Tanaka, A. Yamaguchi, T. Fujikawa, K. Sakuma, I. Morita, K. Ishii : Expression of mRNA for specific fibroblast grown factors associates with that of the myogenic markers MyoD and proliferating cell nuclear antigen in regenerating and overloaded rat plantaris muscle, *Acta Physiol* 2008, 194, 149-159.

(3) その他論文

- 1) 薄井 明：「『隣接ペア』再考」，北海道医療大学看護福祉学部紀要第14号，75-82，2007，12.
- 2) 鎌田禎子：“Address to the Graduating Class, Pine Manor Junior College,” Mayday, “On Fear : The South in Labor,” *Visual Arts*, 日本ウィリアム・フォークナー協会編，『フォークナー事典』，松柏社，8，389，448，624-26，2008，1.
- 3) 櫻井 潤：「アメリカの公的医療保険システムの再編とマネジドケア：信託基金の財政再建策とのかかわりを中心に」，財団法人かんぽ財団平成19年度調査研究助成調査研究報告書，2008，6.
- 4) 館山 碧：植物の学名，英名，和名 (16) (*Chryso-balanus-Clitoria*)，北海道医療大学人間基礎科学論集，33，A33-A56，2007，11.
- 5) 館山 碧：植物の学名，英名，和名 (17) (*Clivia-Cornus*)，北海道医療大学人間基礎科学論集，33，A57-A79，2007，11.
- 6) Tarnoff, Howard N. : Essay Monogram Series, Comparative Issues of North America and Japan, *Hoppoken Quarterly Journal*, Autumn Issue, 141, 64-65, 2007, 10.
- 7) Tarnoff, Howard N. : Essay Monogram Series, Comparative Issues of North America and Japan, *Hoppoken Quarterly Journal*, Winter Issue, 142, 58-59, 2008, 1.
- 8) Tarnoff, Howard N. : Essay Monogram Series, Comparative Issues of North America and Japan, *Hoppoken Quarterly Journal*, Spring Issue, 143, 54-55, 2008, 4.
- 9) Tarnoff, Howard N. : Essay Monogram Series, Comparative Issues of North America and Japan, *Hoppoken Quarterly Journal*, Summer Issue, 144, 50-51, 2008, 7.

(4) 学会発表

- 1) 河野 奨，居弥口大介，館山 碧，豊田栄子：「グアニジノ基を有するシッフ塩基銅 (II) 錯体とウシ

トリプシンとの複合体の結晶構造解析」, 日本薬学会第128年会, 2008. 3.

- 2) Susumu Kawano, Daisuke Iyaguchi, Midori Tateyama, Eiko Toyota : Crystallo- graphic Analyses of Complexes of Bovine Trypsin and Schiff Base Metal Chelate, 第21回国際結晶学連合会議, 2008, 8.

(5) 講演

- 1) 櫻井 潤 : 「日本の医療保険制度と医療保険財政」, 東京大学大学院経済学研究科「グローバル化と福祉国家」, 2007. 11. 26.
- 2) 櫻井 潤 : 「日本の介護保険制度と介護保険財政」, 東京大学大学院経済学研究科「グローバル化と福祉国家」, 2007. 12. 3.
- 3) 櫻井 潤 : 「日本の医療保険財政と地域：20世紀型から21世紀型へ」, 東京大学法学部「財政学」, 2008. 6. 16.
- 4) 櫻井 潤 : 「日本の介護保険財政と地域：20世紀型から21世紀型へ」, 東京大学法学部「財政学」, 2008. 6. 16.
- 5) 森田 勲 : 「石狩市筋力アップ教室基調講演」, 石狩市, 2007, 11.
- 6) 森田 勲 : 「冬に備えた体力づくり」, 池田町, 2007, 11.
- 7) 森田 勲 : 「雪を利用した雪国ならではの健康づくり」, 江別市, 2007, 11.
- 8) 森田 勲 : 「北国の暮らしと健康づくり」, 札幌市, 2007, 11.

(6) 社会活動

- 1) 森田 勲 : 「石狩市筋力アップ教室(1)～(12)」, 石狩市, 2006, 11～2007, 2.

臨床福祉学科

教授：石川 秀也, 椎谷 淳二, 志渡 晃一
白石 淳, 鈴木 幸雄, 中川 賀嗣
向谷地生良, 横井 寿之

准教授：大友 芳恵, 近藤 里美, 佐々木明員
志水 幸, 長谷川 聡, 花澤 佳代
横山登志子

講師：志水 朱, 丹野 和子

助教：伊藤新一郎, 高橋 由紀

(1) 著書

- 1) 志水 幸 : 人権と社会正義を支える. 川廷宗之ほか

編 : 社会福祉をはじめて学ぶあなたへ-社会福祉入門. ヘルスシステム研究所, 143-155. 2008年3月.

- 2) 志水 幸 (編集委員)・福祉小六法編集委員会編 : 福祉小六法2008年版. (株)みらい, 2008年4月.
- 3) 志水 幸 (編集委員)・保育福祉小六法編集委員会編 : 福祉小六法2008年版. (株)みらい, 2008年4月.
- 4) 志水 幸 : 「人間と社会」領域の教育方法. 川廷宗之編 : 介護教育方法論. 弘文堂, 2008年4月. 49-54頁.
- 5) 志水 幸監修 : 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験対策でる人予想厳選70. 日総研出版, 2008年7月.
- 6) 志水 幸監修 : 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験 [完全対策] 必修事項と範例問題2009【関連4科目編】. (株)みらい, 2008年7月.
- 7) 志水 幸監修 : 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験 [完全対策] 必修事項と範例問題2009【基礎4科目編】. (株)みらい, 2008年7月.
- 8) 志水 幸監修 : 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験 [完全対策] 必修事項と範例問題2009【専門5科目編】. (株)みらい, 2008年7月.
- 9) 志水 朱 : パールマン、アダムス、ロス、ウェーバー、シーボーム、ピネー、石井十次、バージェス、マッキーバー、横山源之助、リースマン、ロスマン. 志水 幸監修 : 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験対策でる人予想厳選70. 日総研出版, 2008年7月.
- 10) 中川賀嗣 (共著) : 触覚失認とその周辺. よくわかる失語症セラピーと認知リハビリテーション. 鹿島晴雄, 大東祥孝. 種村 純編. 永井書店, p415-24, 2008.
- 11) 向谷地生良 : 精神保健福祉白書 (2008年) 共著. 精神保健福祉白書編集委員会 中央法2007.
- 12) 向谷地生良 : 「当事者の力」に支えられる精神医療-浦河べてるの家を中心とした精神保健福祉の取り組みから-. 現代のエスプリno487外来精神医療シリーズ2. p. 132-44, 2008.
- 13) 向谷地生良 : ケア・その思想と実践「ケアという思想」共著、編集 : 上野千鶴子、大熊由紀子、神野直彦、大沢真理、福田義也編 向谷地生良他14名、担当部分「逆転の発想」べてるの家の実践を“問題を活かす支援”の面から論じる. p. 107-24, 岩波書店, 2008.
- 14) 向谷地生良 : べてるな人々-その1べてるの家の日々の出来事をソーシャルワーカーの視点から切り取り綴ったエッセー集, 麦出版社, 2008.

- 15) 横山登志子：ソーシャルワーク感覚．弘文堂，2008．
- (2) 論文
- 1) 大月和彦、島谷綾郁、前田兼志、北條友子、村山くみ、志水 幸：島嶼地域住民の楽観性の関連要因に関する研究．生活科学研究第30集．2008年3月．1-10頁．
 - 2) 志水 幸、宮本雅央、北條友子、前田兼志、嘉村藍、大月和彦：粟島地域住の医療受診行動とライフスタイルとの関連．生活科学研究第30集．2008年3月．11-24頁．
 - 3) 宮本雅央、志水 幸、早川 明、古川 奨、山下匡将、小関久恵、嘉村 藍、村山くみ、大月和彦：島嶼地域住民の健診受診及び通院行動とライフスタイルとの関連．北海道公衆衛生学雑誌第21巻第2号．2008年3月．98-108頁．
 - 4) 石川智久、中川賀嗣、小森憲治郎、池田 学、田辺敬貴：右側優位の側頭葉萎縮をともなった相貌認知障害の一症例．高次脳機能障害学．高次脳機能研究．28：1-10，2008．
 - 5) 高杉 潤、揚戸 薫、沼田憲治、村山尊司、中川賀嗣：運動無視の下肢機能—右被殻出血の1例—．神経心理学．24：70-75，2008．
 - 6) 中川賀嗣：失行とは何か（失行の現況）．失行．高次脳機能障害各論．高次脳機能障害のすべて．神経内科．68 [suppl. 5]：279-288，2008．
 - 7) 中川賀嗣：概念失行、使用失行、パントマイム失行など—新たな可能性—．失行．高次脳機能障害各論．高次脳機能障害のすべて．神経内科．68 [suppl. 5]：301-308，2008．
 - 8) 中川賀嗣：運動無視．無視症候群・視空間性障害．高次脳機能障害各論．高次脳機能障害のすべて．神経内科．68 [suppl. 5]：432-438，2008．
 - 9) 中川賀嗣：失行について—使用失行の見かた、捉え方—．認知神経科学．10：77-87．
 - 10) 横山登志子：社会福祉実習の事例研究における関係3者の課題—実習指導職員・担当教員・実習学生の振り返りから—，北海道医療大学看護福祉学部紀要，第14号，89-97，2007．
- (3) そのほかの論文
- 1) 山下匡将、村山くみ、宮本雅央、小関久恵、嘉村藍、竹内夕紀子、古川奨、大月和彦、志水 幸：島嶼地域高齢者の楽観性に関する研究—山形県酒田市飛鳥住民のライフスタイルとの関連．名古屋学院大学論集（社会科学篇）第44巻第2号．2007年10月．239-250頁．
 - 2) 志水 朱・志水 幸：福祉分野の歴史編 [第5回] 日本の社会福祉の歴史①—戦前の救貧制度と民間慈善・博愛事業の形成．介護人材ぶらす11・12月号．日本総合研究所．2007年11月．114-115頁．
 - 3) 志渡晃一、志水 幸、蒲原 龍、宮本雅央、早川明、島谷綾郁、古川 奨：新入学生の対人関係の基本的構えと精神的・身体的自覚症状に関する研究．北海道医療大学看護福祉学部紀要第14号．2007年12月．11-17頁．
 - 4) 志水 幸、早川 明、青山卓広、宮本雅央、山下匡将、小関久恵、竹内夕紀子、古川 奨、島谷綾郁、嘉村藍：島嶼地域高齢者の楽観性の関連要因に関する研究．北海道医療大学看護福祉学部紀要第14号．2007年12月．19-26頁．
 - 5) 志水 幸、志渡晃一、島谷綾郁、早川 明、蒲原龍、宮本雅央、山下匡将、竹内夕紀子、古川 奨、倉橋昌司：本学新入生のライフスタイルと健康感に関する研究（第7報）．北海道医療大学看護福祉学部紀要第14号．2007年12月．27-35頁．
 - 6) 志水 朱、志水 幸：福祉分野の歴史編 [第6回] 日本の社会福祉の歴史②—戦後社会福祉から現代社会福祉への転換．介護人材ぶらす1・2月号．日本総合研究所．2008年1月．114-115頁．
 - 7) 山下匡将、村山くみ、宮本雅央、小関久恵、嘉村藍、竹内夕紀子、古川 奨、大月和彦、志水 幸：島嶼地域住民の主観的健康感に関する研究—山形県酒田市飛鳥住民のライフスタイルとの関連．名古屋学院大学論集（社会科学篇）第44巻第3号．2008年1月．95-109頁．
 - 8) 村山くみ、嘉村 藍、大月和彦、志水 幸：中高年者の生活状況と主観的健康感の関連について．松本短期大学研究紀要第17号．2008年3月．57-67頁．
 - 9) 峯岸（竹内）夕紀子、坂手譲治、志水 幸、志渡晃一：本学新入生における健康感とライフスタイルについて．函館短期大学紀要第34号．2008年3月．1-8頁．
- (4) 学会発表
- 1) 島谷綾郁、早川 明、山下匡将、宮本雅央、小関久恵、嘉村藍、村山くみ、志水 幸：島嶼地域住民の楽観性の関連要因に関する研究．第66回日本公衆衛生学会．2007年10月．
 - 2) 小関久恵、嘉村 藍、村山くみ、早川 明、島谷綾郁、山下匡将、宮本雅央、志水 幸：飛鳥高齢者の主観的健康感の関連要因に関する研究．第66回日本公衆衛生学会．2007年10月．

- 3) 村山くみ、嘉村 藍、小関久恵、宮本雅央、山下匡将、早川 明、島谷綾郁、志水 幸：粟島高齢者の主観的健康感の関連要因に関する研究。第66回日本公衆衛生学会。2007年10月。
- 4) 嘉村 藍、村山くみ、島谷綾郁、山下匡将、宮本雅央、早川 明、小関久恵、志水 幸：島嶼地域住民の健康診断及び医療受診に関連する要因の検討。第66回日本公衆衛生学会。2007年10月。
- 5) 山下匡将、小関久恵、嘉村 藍、村山くみ、鈴木敏彦、伊藤優子、宮嶋 淳、大月和彦、坪井 真、杉山克己、志水 幸、川廷宗之：社会福祉士養成4年制大学の新生の学習方法習熟度に関する研究。日本社会福祉教育学会第3回大会。2007年11月。
- 6) 杉山克己、伊藤優子、大月和彦、嘉村 藍、川廷宗之、小関久恵、志水 幸、鈴木敏彦、坪井 真、宮嶋淳、村山くみ、山下匡将：社会福祉専門教育を見据えた初年次導入教育の検討。日本社会福祉教育学会第3回大会。2007年11月。
- 7) 坪井 真、伊藤優子、大月和彦、嘉村 藍、川廷宗之、小関久恵、志水 幸、杉山克己、鈴木敏彦、宮嶋淳、村山くみ、山下匡将：社会福祉専門職養成における初年次教育の枠組み－『ソーシャルワーク教育および養成のためのグローバル基準』分析をととして。日本社会福祉教育学会第3回大会。2007年11月。
- 8) Tonomura Y, Saito K, Kiriyama T, Kataoka H, Otsuki M, Nakagawa Y, Ueno S : Brain imaging of progressive nonfluent aphasia. 2008.01.30. Honolulu.
- 9) 向谷地生良：「認知行動療法と当事者研究」NO3日本心理学会第72回大会発表ワークショップ，洗足ストレスコーピングオフィス伊藤絵美氏，東京大学石垣琢磨氏との共同企画で，当事者研究を認知行動療法の視点からその意義と可能性を検討する。2008（7月）。
- 10) 向谷地生良：「発達実践において「かかわること（caring）」の意味を問う」立教大学・石黒広昭氏，北海道大学・田中康雄氏との共同発表，発達障害を持つ人達のケアにおける専門家の立ち位置やかかわりの意味を考える。日本心理学会第72回大会発表ワークショップ，2008（7月）。
- (5) 講演
- 1) 志水 幸：専門職養成教育における初年次教育の課題。2007年度全国社会福祉教育セミナー第一分科会。2007年11月。
- 2) 志水 幸：大学教育における社会福祉専門職養成教育の課題。第30回大学教育学会ラウンド。テーブルX。2008年6月。
- 3) 志水 幸：日本社会福祉教育学会の現状と課題－学会設立の経緯・組織状況・課題を中心に。社会福祉系学会連合2008年第1回シンポジウム。2008年7月。
- 4) 志水 幸：社会福祉行政論。社会福祉主事資格認定講習会。北海道社会福祉協議会。2008年7月。
- 5) 志水 朱：平成19年度介護教員講習会（A型）。(社)日本介護福祉士養成施設協会北海道支部・北海道介護福祉士養成施設協会。2008年1月。
- 6) 中川賀嗣：北海道社会福祉協議会 胆振地区。2007。11。5伊達
- 7) 中川賀嗣：北海道医療大学言語聴覚セミナー。2007。11。札幌
- 8) 中川賀嗣：第1回DFサポーター研究会。2007。11。札幌
- 9) 中川賀嗣：第2回DFサポーター研究会。2007。8。04。札幌
- 10) Mika Otsuki, Yoshitsugu Nakagawa, Akihiko Ogata, Hideki Houzen, Tetsutaro Ozawa, Ikuko Takahashi, Ken Sakushima, Ichiro Yabe, Masatoyo Nishizawa, Hidenao Sasaki : Slowly Progressive Foix- Chavany- Marie Syndrome. 18th Meetings of the European Neurological Society. 07. 06. 2008-11. 06. 08, Nice
- 11) 向谷地生良：地域共生ホーム全国セミナーin富山，講演「三度の飯よりミーティング？幻聴・妄想を抱えながら地域で暮らすまで？」主催：地域共生ホーム全国セミナー」inとやま実行委員会，2007（10）。
- 12) 横山登志子：社会福祉援助技術，札幌市子ども家庭福祉担当職員研修，2008（7月）。
- (6) 社会的活動
- 1) 志水 幸：大学教育学会幹事
- 2) 丹野和子：介護概論、高齢者・障害者の心理，地域ボランティアレベルアップ研修会2008（2月）。
- 3) 丹野和子：介護福祉士国家試験実地試験委員 財団法人社会福祉振興・試験センター2008（3月）。
- 4) 丹野和子：相談活動の基本，地域福祉研修；福祉のまち推進センター研修 2008年（7月）。丹野和子：介護概論、高齢者・障害者の心理，地域ボランティアレベルアップ研修会2008（7月）。
- 5) 向谷地生良：
北海道精神保健福祉審議会委員
介護保険等不服申し立て審査会委員
北海道地域生活支援センター権利擁護事業審査委員
当別町障害者福祉計画策定委員長

当別町障害者自立支援法審査会委員

- 6) 横山登志子：面接技法のスキルアップ，北海道医療ソーシャルワーカー協会札幌中央D支部研修会，2007（1月）。
- 7) 横山登志子：面接技法（マイクロカウンセリング），北海道医療ソーシャルワーカー協会札幌中央A支部4～6年目グループ研修，2007（7月）～2008（3月）全5回。
- 8) 横山登志子：ソリューション・フォーカス・アプローチ初級編，北海道医療ソーシャルワーカー協会札幌中央D支部研修，2008（2月）。

看護学 科

生命基礎科学講座

教授：倉橋 昌司，小林 正伸，佐々木重幸，
西 基

(1) 著 書

- 1) 高橋茂樹，豊澤隆弘，西 基：STEP公衆衛生第10版，海馬書房，2007年10月
- 2) 三宅浩次，西 基：北海道における主要死因の概要，2008年3月，北海道健康づくり財団
- 3) 西 基：ノーマライゼーション，丸善，2008年3月，680-681，応用倫理学事典
- 4) 西 基，久繁哲徳：保健医療福祉の統合，丸善，2008年3月，676-677，応用倫理学事典
- 5) 久繁哲徳，西 基：障害者の権利，丸善，2008年3月，678-679，応用倫理学事典
- 6) 西 基，豊澤隆弘：保健師国家試験のためのスキルアップ・ブック2009年版，海馬書房，2008年6月

(2) 論 文

- 1) 倉橋昌司：唾液分泌を促す口腔ケアの定量的評価—ガムおよび食品咀嚼との比較—，北海道医療大学看護福祉学部学会誌，4，81-83，2008，3。
- 2) Darmanin S, Chen J, Zhao S, Cui H, Shirkoohi R, Kubo N, Kuge Y, Tamaki N, Nakagawa K, Hamada J, Moriuti T, Kobayashi M. : All-trans retinoic acid enhances murine dendritic cell migration to draining lymph nodes via the balance of matrix metalloproteinases and their inhibitors. *J of Immunol.* 179 : 4616-4625, 2007.
- 3) Tanaka J, Sugita J, Kato N, Tobai T, Ibata M, Shono

Y, Ota S, Kondo T, Kobayashi T, Kobayashi M, Asaka M, and Imamura M. : Expansion of natural killer cell receptor (CD94/NKG2A)-expressing cytolytic CD8 T cells and CD4+CD25+regulatory T cells from the same cord blood unit. *Exp. Hematol.*, 35 : 1562-1566, 2007.

- 4) Akihito Watanabe, Masanobu Taniguchi, Hitoshi Tsujie, Masao Hosokawa, Masahiro Fujita, Shigeyuki Sasaki : The value of narrow band imaging endoscope for early head and neck cancers. *Otolaryngology- Head and Neck Surgery* 138 : 446-451, 2008
- 5) Junichiro Takahashi, Yutaka Wakamatsu, Jun Okude, Toshihiro Gohda, Youichi Sanefuji, Shigeyuki Sasaki*, Yoshiro Matsui : Idiopathic retroperitoneal fibrosis in a patient suspected of impending rupture of the abdominal aortic aneurysm. *Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery* 14(1) : 55-59, 2008 Feb
- 6) Yoshiro Matsui, Shigeyuki Sasaki : Left ventricular reconstruction for severely dilated heart. *Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery* 14(2) : 66-74, 2008 April
- 7) Junichiro Takahashi, Yutaka Wakamatsu, Jun Okude, Toshihiro Gohda, Youichi Sanefuji, Shigeyuki Sasaki*, Yoshiro Matsui : Septal myectomy, papillary muscles resection and mitral valve replacement for hypertrophic obstructive cardiomyopathy : A case report. *Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery* 14(4) : 258-262, 2008 August
- 8) Junichiro Takahashi, Yutaka Wakamatsu, Jun Okude, Tsuyoshi Kanaoka, Toshihiro Gohda, Youichi Sanefuji, Shigeyuki Sasaki*, Yoshiro Matsui : Maximum aortic diameter as a simple predictor of acute type B aortic dissection. *Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery*(in press)
- 9) 西 基，ダニエル・サジェ，リカルド・ハウプト：日本・フランス・イタリアの神経芽腫死亡率の変化。日本マス・スクリーニング学会誌，17：37-41；2007
- 10) 志渡晃一，蒲原 龍，西 基，三宅浩次：北海道の女性労働者における抑うつ因子構造に関する研究。北海道医療大学看護福祉学部紀要，14：83-87；2007
- 11) 西 基，三宅浩次：無職世帯における乳児死亡・周産期死亡・死産。厚生指針，54：34-38；2007
- 12) 西 基，三宅浩次：メンタルヘルスに関する産業医の意識。北海道医報，7：10-11；2008
- 13) 西 基，三宅浩次：朝食摂取と勤労者のメンタルヘルス。北海道医療大学看護福祉学部学会雑

誌, 4 : 79-80 ; 2008

- 14) Nishi M : Mass screening for neuroblastoma and its mortality in Japan. *Advances in Neuroblastoma Research*, 21-24 ; 2008.
- 15) 西 基 : 肥満と生活リズム. *チャイルドヘルス*, 11 : 97-100 ; 2008
- 16) 西 基 : 死亡率とreproductionの観点からみたマススクリーニングのあり方. *小児外科* 40 : 1039-1042 : 2008
- 17) 花井潤師, 田上泰子, 阿部敦子, 太田 優, 福士勝, 矢野公一, 藤田晃三, 西 基, 長 祐子, 飯塚 進, 内藤春彦 : 18か月マススクリーニングの現状 (札幌市) *小児外科*40 : 1039-1042 : 2008

(3) その他の論文

- 1) 志水 幸, 志渡晃一, 島谷綾郁, 早川 明, 蒲原龍, 宮本雅央, 山下匡将, 竹内夕紀子, 古川 奨, 倉橋昌司 : 本学新入生におけるライフスタイルと健康感に関する研究 (第7報), *北海道医療大学看護福祉学部紀要*, 14, 27-35, 2007, 12.
- 2) 西 基 : 次世代生産の視点から見た神経芽腫マス・スクリーニング. *厚生労働省科学研究補助金登録症例に基づく神経芽腫マス・スクリーニング効果判定 平成16-18年度 総合研究報告書* 143-145 ; 2007
- 3) 花井潤師, 福士 勝, 藤田晃三, 西 基 : 札幌市における神経芽腫スクリーニング. *厚生労働省科学研究補助金登録症例に基づく神経芽腫マス・スクリーニング効果判定 平成16-18年度 総合研究報告書*139-141 ; 2007
- 4) 西 基 : 2007年度札幌市立小中学校における栄養・生活習慣調査報告, *平成19年度牛乳栄養学術研究会委託研究報告書*, *日本酪農乳業協会*, 1 -16 ; 2008

(4) 学会発表

- 1) 西 基 : 神経芽腫マス・スクリーニング中止後の副腎の悪性新生物死亡率の上昇. *日本マス・スクリーニング学会第35回学術集会*2008年 8月30日 松江市
- 2) 西 基 : 日本とフランスにおける出生コホート別の神経芽腫死亡率の比較. *日本小児がん学会第23回学術集会*2007年12月16日 仙台市
- 3) Nishi M : Mass screening for Neuroblastoma and its mortality in Japan. *Advances in Neuroblastoma Research* 2008. *Chiba May* 23, 2008

(5) 講演

- 1) 西 基 : JICA研修員 新生児マス・スクリーニングコース「医療経済学」2008年 2月 5日 札幌市衛生研究所
- 2) 西 基 : 札幌市消防局 放火対策講演会「社会病理としての放火」 2008年 6月10日 札幌市消防局
- 3) 西 基 : 札幌市教育委員会 栄養教諭研修会「統計処理」2008年 8月 8日 ちえりあ

(6) 社会的活動

- 1) 西 基 : 北海道健康づくり財団アカデミア専門部会委員
- 2) 西 基 : 鹿追町「いきいき健康計画21inしかおい」専門委員
- 3) 西 基 : 札幌市マス・スクリーニング事業連絡会議委員
- 4) 西 基 : 当別町特別支援教育推進サポート組織委員
- 5) 西 基 : 北海道 道民の健康づくり推進委員会委員
- 6) 西 基 : 厚生労働省 診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業評価委員会 委員
- 7) 西 基 : 日本小児保健学会評議員
- 8) 西 基 : 北海道公衆衛生学会編集委員

実践基礎看護学講座

教授 : 花岡真佐子, 平 典子
講師 : 伊藤祐紀子
助教 : 明野 伸次, 中島 幸子

(1) 著書

- 1) 大橋優美子他監修, 花岡真佐子他編 : *看護学学習辞典* (第3版), 学習研究社, 2008, 3.

(2) 論文

- 1) 明野伸次, 平 典子, 鹿内あずさ, 伊藤祐紀子, 花岡真佐子 : 看護技術における行為の構造化 (第5報) - リネンチェンジにおける身体性、順序性の特徴 -, *北海道医療大学看護福祉学部学会*, 4 (1), 91-97, 2008.
- 2) 鹿内あずさ, 平 典子, 明野伸次, 伊藤祐紀子, 花岡真佐子 : 看護技術における行為の構造化 (第6報) - シャンプーにおける身体性、順序性の特徴 -, *北海道医療大学看護福祉学部学会誌*, 4 (1), 99-104, 2008.

(3) その他の論文

- 1) 伊藤祐紀子：患者看護師間の相互作用に見出される看護師の身体に関する研究～看護師が患者への気がかりをもとにかかわりながら看護行為していくプロセスの探究～，平成19年度日本私立看護系大学協会年報，日本私立看護系大学協会，91-92，2008，6.

(4) 学会発表

- 1) 花岡真佐子他：排泄ケア専門員養成セミナーの教育評価，第21回 日本老年泌尿器科学学会，北九州市，2008，5.
- 2) 花岡真佐子：「看護実践の概要を知る」授業プランの検討ーグループ学習の効果に焦点をあててー，北海道医療大学看護福祉学部学会 第5回学術大会，札幌市，2008，9.
- 3) 平 典子，鳴井ひろみ，本間ともみ：プレゼンスが生じる要因とその成果ー緩和ケアでの家族の体験から，日本がん看護学会，名古屋市，2008，2.
- 4) 明野伸次，平 典子，鹿内あずさ，伊藤祐紀子，花岡真佐子：看護技術における行為の構造化（第5報）ーリネンチェンジにおける身体性，順序性の特徴ー，第27回 日本看護科学学会学術集会，東京都，2007，12.
- 5) 鹿内あずさ，平 典子，明野伸次，伊藤祐紀子，花岡真佐子：看護技術における行為の構造化（第6報）ーシャンプーにおける身体性，順序性の特徴ー，第27回看護科学学会学術集会，東京都，2007，12.

(5) 講演

- 1) 花岡真佐子：V. ヘンダーソン看護理論とゴードンの看護診断アセスメントの枠組み，旭川厚生病院看護部研修，旭川市，2007，12.

(6) 社会活動

- 1) 平 典子：「事例を研究的視点でまとめるとは」北海道大学病院看護部3年目研修，札幌市，2008，8.
- 2) 平 典子：有料老人ホーム公楽苑職員研修「終末期における家族ケア」講師，当別町，2008，2.
- 3) 伊藤祐紀子：患者看護師間の相互作用に見出される看護師の身体に関する研究～看護師が患者への気がかりをもとにかかわりながら看護行為していくプロセスの探究～，日本私立看護系大学協会研究セミナー 平成17年度若手研究者研究助成 研究成果発表会，東京都，2008，8.
- 4) 明野伸次：有料老人ホーム公楽苑職員研修「実践介護ーヒヤリハットの研究」講師，当別町，2007，10.

地域保健看護学講座

(老年看護学)

(1) 著書

- 1) 井出 訓：第1編2 休息，第1編6 コミュニケーション，第2編第2部35 感覚・知覚障害，山田律子・井出訓（編集）：生活機能からみた老年看護過程，医学書院，Pp 9-16，42-49，418-426，2008.
- 2) 井出 訓：ケアの根拠，道又元裕（監修）：日本看護協会出版会，Pp125-126，2008.
- 3) 井出 訓：認知症ケア標準テキスト認知症ケアの実際IIー各論第1章III，ワールドプランニング，Pp79-96，2007.
- 4) 井出 訓（共訳）・阿保順子（監訳）：アルツハイマーのための新しいケア，Joanne Koening Coste：Learning to Speak Alzheimer's, Graybill & English LLC，信誠書房，2007.
- 5) 山田律子：第1編3 食事，第2編第2部27 摂食・嚥下障害，山田律子・井出訓（編集）：生活機能からみた老年看護過程，医学書院，Pp 17-25，322-337，2008.
- 6) 山田律子：2. 栄養管理，石垣和子・金川克子（監修）：高齢者訪問看護の質指標ーベストプラクティスを目指して，日本看護協会出版，Pp14-29，2008.
- 7) 山田律子：II-2 認知症をもつ人の摂食・嚥下に関するアセスメント，III-3 高齢者施設でのケースマネジメント計画，鎌倉やよい，向井美恵（編集）：訪問看護にける摂食・嚥下リハビリテーションー退院から在宅まで，医歯薬出版，Pp. 25-30，82-89，2007.
- 8) 萩野悦子：第1編1 活動，第2編第1部9 パーキンソン病，第2編第1部10 脊髄小脳変性症，第2編第1部19 老人性皮膚癢痒症，第2編第1部20 褥瘡，第2編第1部21 白癬，第2編第2部32 睡眠障害，山田律子，井出 訓（編集），生活機能からみた老年看護過程，医学書院，Pp 2-8，100-108，113-121，234-239，245-253，257-261，382-392，2008.
- 9) 内ヶ島伸也：第1編5 身じたく，第2編第1部17 前立腺肥大症，第2編第1部18 神経因性膀胱，第2編第1部26 尿路感染症，山田律子・井出 訓（編集）：生活機能からみた老年看護過程，医学書院，Pp33-41，33-41，211-217，222-229，312-319，2008.

(2) 論文

- 1) 山本則子, 岡本有子, 辻村真由子, 金川克子, 正木治恵, 鈴木みずえ, 山田律子, 鈴木育子, 永野みどり, 岡田 忍, 本田彰子, 赤沼智子, 根本敬子, 深田順子, 石垣和子: 高齢者訪問看護の質指標開発の検討: 全国の訪問看護ステーションで働く看護師による自己評価, 日本看護科学学会誌, 28 (2), 37-45, 2008.
- 2) 萩野悦子, 山田律子, 常田いづみ, 井出 訓: 認知症高齢者の自発性を引き出す集団音楽療法における介入スキル, 北海道医療大学看護福祉学部学会誌, 4 (1), 17-27, 2008.

(3) その他論文

- 1) 井出 訓: アルツハイマー病のリスク要因と予防的介入の可能性, EBナーシング, 8 (2), 62-70, 2008.
- 2) 山田律子: 認知症の人の生活環境を整える, 看護技術, 53 (12), 35-38, 2007.
- 3) 山田律子: 認知症の人の日常生活における困難とケアのポイント①: 食事のケア, 看護技術, 53 (12), 39-45, 2007.
- 4) 萩野悦子: 認知症の人の日常生活における困難とケアのポイント④睡眠のケア, 看護技術, 53 (12), 57-62, 2007.
- 5) 萩野悦子: 認知症の人のBPSD (行動・心理症状) への看護アプローチ⑥睡眠・覚醒障害, 看護技術, 53 (12), 93-97, 2007.
- 6) 内ヶ島伸也: 認知症の人の日常生活における困難とケアのポイント②清潔のケア, 看護技術, 53 (12), 46-50, 2007.

(4) 学会発表

- 1) 金城 光, 井出 訓, 森 伸幸: 日本版成人メタ記憶尺度MIA (The Questionnaire for Metamemory in Adulthood) 短縮版開発のための検討, 日本心理学会第72回大会, 札幌, 2008, 9.
- 2) 井出 訓: ケア対象としてのスピリチュアリティ, シンポジウム: 老年学におけるスピリチュアリティの意味, 第50回老年社会科学大会, 大阪, 2008, 8.
- 3) 山田律子, 萩野悦子, 内ヶ島伸也, 井出 訓: 経管栄養を受けている認知症高齢者が口から食べる力を見極めるためのガイドラインの作成, 日本看護研究学会北海道地方会学術集会, 札幌, 2008, 6.
- 4) 寺下いづみ, 山田律子, 井出 訓: 手術目的で一般病院に入院する認知症高齢者の状態像変化と看護ケ

アの方向性, 第9回日本認知症ケア学会, 高松, 2008, 9.

- 5) 萩野悦子, 山田律子, 常田いづみ, 井出 訓: 認知症高齢者の自発性を引き出す集団音楽療法における介入スキルー音楽療法士の8回のセッションの分析ー, 日本認知症ケア学会第8回大会, 盛岡, 2007, 10.
- 6) 内ヶ島伸也, 山田律子, 井出 訓, 大久保幸積: 認知症高齢者の意思決定能力の特徴, 日本認知症ケア学会第8回大会, 盛岡, 2007, 10.

(5) 講演

- 1) 井出 訓: 的確な判断のための思考プロセスの明確化ー高齢者のフィジカルアセスメントー「フィジカルアセスメントから看護ケアへの思考プロセス」, 第12回日本老年看護学会ワークショップ, 神戸, 2007, 11.
- 2) 山田律子: 教育講演「摂食・嚥下」, 第9回日本認知症ケア学会大会, 高松, 2008, 9.

(6) 社会的活動

- 1) 山田律子: 平成20年度 当別町介護認定審査会委員, 当別町.
- 2) 山田律子: 平成20年度 当別町障害程度区分認定審査会委員, 当別町.
- 3) 山田律子: 平成20年度 北海道看護協会 高齢者の看護研修会「高齢者をもつ家族への看護」講師, 札幌, 2008, 9.
- 4) 山田律子: 平成20年度 日本看護協会看護研修学校 認知症看護認定看護師講師, 東京, 2008, 8.
- 5) 山田律子: 平成20年度 医療法人溪仁会西円山病院 看護部研修「看護研究の進め方」講師, 札幌, 2008, 6.
- 6) 山田律子: 平成20年度 北海道看護協会高齢者の看護Ⅱ研修会ー高齢者の尊厳と安全を守るために「高齢者の尊厳とケア」, 札幌, 2008, 1.
- 7) 山田律子: 平成20年度 北海道看護協会認知症高齢者ケア研修会「認知症高齢者の看護の基本」, 札幌, 2008, 1.
- 8) 萩野悦子: 平成20年度 看護教員養成講習会, 「研究方法」講師, 札幌, 2008, 5-6.
- 9) 内ヶ島伸也: 平成20年度 滝川市立病院看護部「看護研究研修」講師, 滝川, 2008, 8-9.

(精神看護学)

教授: 阿保 順子
準教授: 佐久間えりか

講師：笹木 弘美

助教：吉野賀寿美，近田真美子

(1) 著書

- 1) 阿保順子，粕田孝行編著：境界性人格障害患者の理解と看護，精神看護出版，2008年5月。
- 2) 阿保順子著：精神看護という営み，批評社，2008年5月。
- 3) 阿保順子監訳：アルツハイマーのための新しいケア—語られなかった言葉を探して，誠信書房，2007年10月。

(2) 論文

- 1) 吉野賀寿美，佐久間えりか，笹木弘美，近田真美子：社会参加を支える施設での実習を通しての学生の学び，北海道医療大学紀要，14，57-64，2007。
- 2) 吉野賀寿美：患者の回復過程を支える社会復帰援助プログラムの有効性と無効性の検討，北海道医療大学看護福祉学部学会誌，4，43-58，2008。

(3) その他の論文

- 1) 阿保順子：統合失調症の早期退院後における自我強化の方法—本質的な生き難さ・生活体験・自我へのフィードバックをキーワードにして—，平成15年度～平成17年度科学研究費補助金研究成果報告，2008。
- 2) 阿保順子：統合失調症患者の自我強化のための看護面接の方法に関する信頼性と妥当性の検討，平成19年度科学研究費補助金実績報告書，2008。
- 3) 吉野賀寿美：外来通院する統合失調症患者に対する社会吹きプログラム実施の効果，平成19年度科学研究費補助金実績報告書，2008。
- 4) 近田真美子：うつ病回復者の「状況構成」の変化の特徴，デイケア施設通所者におけるメタ記憶および自己効力感と抑うつ感の関係，平成19年度科学研究費補助金実績報告書，2008。
- 5) 吉野賀寿美：外来に通院する統合失調症患者に対する社会復帰プログラム実施の効果，平成18年度日本私立看護系協会研究助成事業「若手研究者研究助成」研究成果報告書，2008。

(4) 学会発表

- 1) 近田真美子：状況構成からみた職場復帰—5度目の配置転換でうつ病を発症した1症例から—，第5回日本うつ病学会，2008。7。福岡。

(5) 講演会

- 1) 阿保順子：認知症ケアをめぐる問題，精神看護出版，北海道医療大学看護福祉学研究科術フロンティア推進事業「認知症高齢者のトータルケアに関する学際的研究」公開シンポジウム。
- 2) 阿保順子：エスノグラフィーの描き方，北海道医療大学看護福祉学研究科術フロンティア推進事業「認知症高齢者のトータルケアに関する学際的研究」平成19年度研究成果報告会。
- 3) 阿保順子：看護実践と医療人類学の間，日本文化人類学会シンポジウム。

(6) 社会的活動

- 1) 阿保順子：NPO法人こころ理事長
- 2) 佐久間えりか：静療院看護部看護研究講師，2008。
- 3) 佐久間えりか：千歳市民病院看護部看護研究講師，2008。
- 4) 佐久間えりか：独立行政法人国立病院機構 北海道看護研究学会 論文指導，2008。
- 5) 佐久間えりか：平成19年度北海道介護予防市町村支援委員会委員。
- 6) 佐久間えりか：北海道産業衛生学会北海道地方会看護部会「産業看護講座基礎コース」研修講師「健康相談」2007年6月23日，札幌市立大学。
- 7) 佐久間えりか：保健福祉所保健師の活動強化に関する研修会講師「質的研究について」(2007年7月12日 かでる27)「力量をアップするために」(2008年3月4日 かでる27) および研究指導。
- 8) 笹木弘美：静療院看護部看護研究講師，2008。
- 9) 笹木弘美：千歳市民病院看護部看護研究講師，2008。
- 10) 笹木弘美：独立行政法人国立病院機構 北海道看護研究学会 論文指導，2008。
- 11) 吉野賀寿美：NPO法人こころ理事兼相談員
- 12) 吉野賀寿美：静療院看護部看護研究講師，2008。
- 13) 吉野賀寿美：千歳市民病院看護部看護研究講師，2008。
- 14) 近田真美子：NPO法人こころ理事兼相談員
- 15) 近田真美子：静療院看護部看護研究講師，2008。
- 16) 近田真美子：独立行政法人国立病院機構 北海道看護研究学会 論文指導，2008。

(地域看護学)

(2) 論文

- 1) 工藤禎子：都市部に引越した要支援・要介護高齢者の生活変化と心身の状態，老年社会科学，29(4)，553-560，2008。

(3) その他論文

- 1) 桑原ゆみ：トランスセオレティカル・モデルを適用した地域住民の運動と栄養に関する行動変容を促す保健指導内容の文献検討，北海道医療大学看護福祉学部紀要，14，65-74，2007，12.

(4) 学会発表

- 1) 桑原ゆみ：健診受診者における身体活動の変化ステージとトランスセオレティカルモデルの検討，第66回日本公衆衛生学会総会，愛媛，日本公衆衛生雑誌，54 (10)，271，2007，10.
- 2) 桑原ゆみ：生活習慣病予防を目的とした3ヶ月の個別的運動・栄養保健指導による短期的効果の検討，第13回日本糖尿病教育・看護学会，石川，日本糖尿病教育・看護学会誌，12 (特別号)，132，2008，9.
- 3) 明野聖子，澤田あずさ，工藤禎子，竹生礼子：1歳6ヵ月児の母親の育児幸福感と母親からみた父親のサポート，北海道医療大学看護福祉学部学会，2008，9.

(5) 社会的活動

- 1) 工藤禎子：当別町地域包括支援センター運営協議会委員，平成19年度～現在
- 2) 工藤禎子：江別市福祉審議会委員，平成18年度～現在
- 3) 工藤禎子：北海道社会福祉施設整備選定に関する有識者会議委員，平成20年1月～.
- 4) 工藤禎子：北海道看護協会研修講師，看護研究—調査研究について—，2008. 7. 1
- 5) 桑原ゆみ：平成20年度滝川市立病院看護部「看護研究研修」講師，滝川市，2008，8-9.
- 6) 桑原ゆみ：当別町健康づくり行動計画推進協議会委員，当別町，2006，2～現在.
- 7) 桑原ゆみ：当別町国民健康保険運営協議会委員，当別町，2006，10～現在.
- 8) 竹生礼子：北海道リハビリテーション看護研究会主催，「施設から地域につなげる看護の役割—在宅へ向けるアセスメント」講師，2007. 11. 23.
- 9) 竹生礼子：札幌医科大学付属病院看護部主催，特別講演会「退院調整における看護の役割」講師，2008. 1. 9.
- 10) 竹生礼子：当別町第4期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画策定委員会委員，2008. 7. 1～2009. 3. 31
- 11) 竹生礼子：平成19年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム「双方向型医療コミュニケーション教育の展開」メディカルカフェゲスト，テーマ「いい死の

迎え方 いい生き方—個人に合わせた終末期ケア」，2008. 9. 20.

- 12) 竹生礼子：札幌ホスピス緩和ケアネットワークコンサルテーション事業，札幌西部会学習会，2008. 8. 5.

母子看護学講座

(母性看護学)

(2) 論文

- 1) Izumi Saito, Michiko Ito, Kimie Endo: Midwifery and nursing support in labor and delivery. Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine, VOL21, 81-82, 2008.
- (3) その他の論文
- 1) 齋藤いずみ，伊藤道子，遠藤紀美恵，坂梨 薫，成田 伸：分娩時の安全と質保証を基盤とした看護人員配置に関する看護経済学的検証，日本学術振興会平成18-19年度科学研究費補助金（基盤研究(C)）研究成果報告書，1-81，2008，5月.
- 2) 遠藤紀美恵，齋藤直美，江崎絹枝，畠田美穂子，江口隆子：北海道内の専門学校教員の実態と看護教育活動への要望と意識調査，北海道看護教育研究会会報，No35，27-35，2007，12月.

(4)学会発表

- 1) 齋藤いずみ，伊藤道子，遠藤紀美恵：分娩第1期から4期における看護行為と看護時間の分析，北海道医療大学看護福祉学第4回学術大会，2007年9月，札幌.
- 2) 齋藤いずみ，則松広美：産科医療の集約化を安全に実施するための基礎分析と看護職員配置—北海道における事例，第45回日本病院管理学会，2007年10月.
- 3) 齋藤いずみ，遠藤紀美恵，伊藤道子，西 基，坂梨薫，成田 伸：曜日と時刻を主たる指標とした施設別分娩特性と根拠に基づいた「安全と質」保証，第48回日本母性衛生学会，2007年10月，つくば.
- 4) 竹田礼子，齋藤いずみ，西 基：非妊娠時BMI別に見た分娩後1ヶ月健康診査時の母親の体重変化，第48回日本母性衛生学会，2007年10月，つくば.
- 5) 林佳子，齋藤いずみ，西 基：経膈分娩における会陰損傷の発生—会陰切開率の変化した年度間の比較検討，第48回日本母性衛生学会，2007年10月，つくば.
- 6) I.Saito, M.Ito, K.Endo: Midwifery and nursing support

- in labor and delivery. 21th European Congress of Perinatal Medicine, September 2008, Turkey Istanbul.
- 7) 瀧真弓, 水上尚典, 齋藤いずみ, 西 基: 多胎妊婦における妊娠中の体重変化, 第48回日本母性衛生学会, 2007年10月, つくば.
 - 8) 島谷友佳子, 居島美穂, 菊地静子, 齋藤いずみ, 遠藤紀美恵, 伊藤道子: 分娩データの分析結果からみちびく助産師外来における検討事項, 第37回北海道母性衛生学会, 2007年10月, 札幌.
 - 9) 遠藤紀美恵, 齋藤いずみ, 伊藤道子, 島谷友佳子, 居島美穂: 分娩の安全性に関する考察—病棟構成・看護体制・分娩数の異なる病院間での比較—, 第37回北海道母性衛生学会, 2007年10月, 札幌.
 - 10) 市川正人, 齋藤いずみ, 西 基: 北海道における生後1ヶ月児を持つ母親の乳幼児突然死症候群に対する知識の現状, 第17回日本新生児看護学会, 2007年11月.
 - 11) 遠藤紀美恵, 齋藤直美, 江崎絹枝, 畠田美穂子, 江口隆子: 北海道内の専門学校教員の実態と看護教育活動への要望と意識調査, 北海道看護教育研究会研究会, 2008年4月, 札幌.
 - 12) 齋藤いずみ, 伊藤道子, 遠藤紀美恵, 成田 伸, 坂梨薫, 水流聡子: 分娩情報を効率的に把握するための「分娩情報シートの開発」, 第9回日本医療情報学会看護学術大会, 2008年7月, 東京.
 - 13) 齋藤いずみ, 伊藤道子, 遠藤紀美恵: 北海道内の施設における分娩基礎データと「出産体験の自己評価」の関連, 第5回北海道医療大学看護福祉学部学会学術大会, 2008年9月.
 - 14) 佐藤陽子, 齋藤いずみ: 周産期医療の集約化により分娩数が増加した施設における1年間の分娩の傾向, 第5回北海道医療大学看護福祉学部学会学術大会, 2008年9月.
- (5) 講 演
 - 1) 齋藤いずみ: 賢い看護師の活用 認定看護師と専門看護師, 札幌北法人会, 2008年6月.
 - (6) 社会活動
 - 1) 齋藤いずみ: 第37回北海道母性衛生学会 座長 2007年10月.
 - 2) 齋藤いずみ: 第48回日本母性衛生学会 座長 2007年10月.
 - 3) 齋藤いずみ: 看護研究発表会講評, 釧路労災病院看護部看護研究指導, 2008年1月.
 - 4) 齋藤いずみ: 自分の性に向き合おう, 札幌丘珠高校講義, 2008年8月.
 - 5) 齋藤いずみ: 日本看護系大学協議会専門看護師教育課程委員.
 - 6) 齋藤いずみ: 北海道庁総合医療協議会地域医療対策看護対策委員.
 - 7) 齋藤いずみ: 北海道保健福祉部保健医療局医療政策課, 北海道専門分野看護師育成検討会委員 (がん・糖尿病).
 - 8) 齋藤いずみ: 厚生労働省. 厚生労働科学研究. 分娩拠点病院の創設と産科2次医療圏の設定による産科医師集中化モデル事業.「助産師活用」研究班WG I ワーキンググループリーダー.
 - 9) 遠藤紀美恵: 第1回オープンカレッジin北海道医療大学「おいしく食べて元気な体になろう」2008. 5. 25 北海道医療大学.
 - 10) 植谷亜希子: 平成19年度札幌大谷中学校「性教育」講師, 札幌, 2007, 10月.
 - 11) 植谷亜希子: 平成19年度札幌大谷高等学校「性教育」講師, 札幌, 2007, 12月.
- (小児看護学)
 - (1) 著 書
 - 1) 三国久美: 1章子どもと環境, 濱田裕子・幸松美智子編: 場面で学ぶ小児看護学, メディカ出版, 10-25, 2008, 4.
 - 2) 三国久美: 地域で子育てをしている母親の思い, 廣瀬たい子編: 看護のための乳幼児精神保健入門, 金剛出版, 31-39, 2008, 5.
 - (2) 論 文
 - 1) T.Hirose, T. Teramoto, S. Saitoh, I. Takahashi, M. Hiramatsu, M. Okamitsu, M. Sonobe, K. Mikuni, T. Omori, S. Shirakawa: Preliminary early intervention study using Nursing Child Assessment Teaching Scale in Japan, *Pediatric International*, 49, 950-958, 2007.
 - 2) 木浪智佳子, 萬美奈子, 三国久美: 子どもの体格と子どもの生活習慣や体型に関する親の認識との関連, 北海道医療大学看護福祉学部学会誌, 4 (1), 29-34, 2008.
 - (3) 学会発表
 - 1) 三国久美: 第一子を持つ専業主婦の母親の育児におけるストレスフルな状況, 第1回乳幼児保健学会, 2007, 11.
 - 2) 川崎裕美, 三国久美: 幼児の食における意識と行動に関する研究, 第1回乳幼児保健学会, 2007, 11.
 - 3) Kusanagi, M., Hirose, T., Mikuni, K.: A Study of Parenting Support for Premature Infants and their Mothers,

The 11th World Congress of the World Association for Infant Mental Health, Yokohama, 2008, 7.

- 4) 河野總子, 木浪智佳子, 松原美智子, 原 等子, 鹿内あずさ: 看護師集団におけるキャリア・アンカー-E.H. シャインの理論モデルを用いて, 第45回日本病院管理学会学術集会, 2007, 10.
- 5) 萬美奈子, 木浪智佳子, 三国久美: 未就学児の肥満を予防するための保健教育に関する保護者のニーズ, 第55回小児保健学会, 2008, 9.

(4) 社会活動

- 1) 三国久美: 江別市立病院「看護研究実践コース研修」講師, 2007, 10~2008, 9.
- 2) 三国久美, 木浪智佳子: 北海道社会保険病院「看護係長研修」講師, 2008, 4~2008, 9.

成人看護学講座

教授: 野川 道子

講師: 唐津 ふさ, 佐々木栄子, 館山 光子,
西村 歌織

助教: 涌井 知子, 二本柳玲子, 堀籠はるえ

(2) 論文

- 1) 佐々木栄子, 西村歌織, 唐津ふさ, 野川道子: パーキンソン病患者の療養生活の受けとめと症状・日常生活動作との関連, 北海道医療大学看護福祉学部学会誌, 4 (1), 35-41, 2008.
- 2) 西村歌織, 唐津ふさ, 佐々木栄子, 野川道子: 神経難病患者の療養生活の受けとめ尺度の開発, 北海道医療大学看護福祉学部紀要, 14, 37-48, 2007.
- 3) 堀籠はるえ: 高齢者の性の実態と社会活動との関連, 北海道医療大学看護福祉学研究所修士論文, 2008

(3) その他の論文

- 1) 野川道子: 障害受容・病気認識のニューパラダイム①, 障害受容・病気認識の新しい見方, 看護技術, 54 (8), 75-80, 2008.
- 2) 野川道子, 佐々木栄子: 障害受容・病気認識のニューパラダイム③, Charmazの慢性病と自己に関する理論, 看護技術, 54 (10), 76-80, 2008.
- 3) 唐津ふさ, 佐々木栄子, 館山光子, 西村歌織, 涌井知子, 大西奈穂, 野川道子: 新カリキュラムに生かす演習&実習 看護チームの一員として複数患者を受け持つ実習, 看護展望, 33 (3), 75-80, 2008.

4) 唐津ふさ, 野川道子: 「Yoshidaの振り子理論」と「Patersonの視点変化モデル」, 看護技術, 54 (9), 74-78, 2008.

5) 佐々木栄子: パーキンソン病患者が肯定的自己概念を維持するための援助プログラムの構築, 平成17~19年度科学研究費補助金(基盤研究C)研究成果報告書, 2008. 3.

6) 館山光子, 野川道子: 障害受容・病気認識のニューパラダイム④, 「Selderのライフ・トランジション理論」と「Kendall & Buysの適応の統合モデル」, 看護技術, 54 (11), 76-80, 2008.

(4) 学会発表

- 1) 佐々木栄子, 涌井知子, 本吉美也子, 有馬祐子, 野川道子: パーキンソン病患者の肯定的自己概念を支える支援プログラムの構築, 第13回日本難病看護学会学術集会, 2008. 8.
- 2) 佐々木栄子, 涌井知子, 本吉美也子, 有馬祐子, 野川道子: パーキンソン病患者の肯定的自己概念を支える支援プログラムの評価, 第13回日本難病看護学会学術集会, 2008. 8.
- 3) 涌井知子: 植込み型除細動器(ICD)患者の抱く心理・社会的苦痛-インタビュー調査より-北海道医療大学学部学会, 2008. 9.
- 4) 二本柳玲子: 血液透析を受ける女性の体験の一考察~関連性評定質的分析(KH法)を用いて~, 第18回日本看護研究学会 北海道地方会学術集会, 札幌, 2008. 6.

(6) 社会活動

- 1) 野川道子: 第2回日本慢性看護学会学術集会 シンポジウム「共にあり共に変わる」の座長, 2008. 6.
- 2) 野川道子: 平成20年度看護教員養成講習会, 看護理論(慢性病), 講義, 2008. 9.
- 3) 野川道子: 江別市立病院「看護研究実践コース研修」講師, 2007, 10~2008, 9,
- 4) 唐津ふさ: 平成20年度手稲溪仁会病院看護部「臨床実習指導者講習会」講師, 2008. 8.
- 5) 唐津ふさ, 館山光子: 平成19年度手稲溪仁会病院看護部「看護研究」講師, 2007. 10~2008. 5.
- 6) 唐津ふさ, 館山光子: 北海道主催平成20年度看護教員養成講習会「研究方法演習」講師, 2008. 7~8.
- 7) 唐津ふさ: 北海道主催平成20年度保健師助産師看護師等実習指導者講習会「看護教育課程(成人看護学)」講師, 2008. 9.
- 8) 佐々木栄子: 札幌厚生病院「平成20年度臨床指導者研修」講師, 2008. 5.

- 9) 佐々木栄子：国立病院機構札幌南病院「平成20年度看護研究研修会」講師，2008. 5.
- 10) 館山光子：平成20年度北海道看護協会学会委員.
- 11) 西村歌織：がんサバイバー支援・啓発チャリティイベント「リレー・フォー・ライフ北海道」実行委員.
- 12) 二本柳玲子：関連性評定質的分析研究会 第一回講習会 幹事，2008, 8～
- 13) 二本柳玲子：メディカル・ダンスムーブメント・セラピー研究会 幹事，2008, 9～
- 14) 堀籠はるえ：「認知症フレンドシップクラブ」DFサポーター.
- 15) 堀籠はるえ：健康生きがいつくりアドバイザー.
- 16) 堀籠はるえ：平成19年度美唄市市民講座「認知症ってなあに？」講師，2007. 10.

臨床看護学講座

准教授：川村三希子，塚本 容子
 講師：高橋 久江，石岡 朋子
 助教：北村美奈子

(2) 論文

- 1) 川村三希子：再発後を生きる乳がん患者の生活と体験，北海道医療大学看護福祉学研究科博士論文，2007.

(3) その他の論文

- 1) 川村三希子，小島悦子：緩和ケア移行期に有益な情報ニーズの検討．平成19年度笹川医学医療研究助成報告書，2007.
- 2) 川村三希子：エンド・オブ・ライフケアにおける Good Deathの検討．平成19年度科学研究費助成金（スタートアップ）研究成果報告書，2007.
- 3) 塚本容子：HIV患者のアドヒアランスの現状と教育的介入の効果，平成19年～平成20年科学研究費補助金若手研究（S）研究成果報告書，2008年3月.
- 4) 塚本容子：緩和ケア病棟におけるAIDS患者の受け入れのための教育プログラムの開発とその評価，平成19年度笹川医学医療研究財団研究報告書，2008年3月.
- 5) 塚本容子：感染管理認定看護師，月刊ナーシング，28（5），52-55，2008年4月.
- 6) 塚本容子：感染症看護専門看護師，月刊ナーシング，28（5），164-167，2008年4月.

(4) 学会発表

- 1) 川村三希子：再発乳がん患者が抱える特徴的な問題～ウェブログ・闘病記・インタビューからの分析．日本緩和医療学会，7月，静岡.
- 2) 塚本容子：米国ヘルスケアにおけるPay for Performance 実際，医療の質・安全学会第2回学術集会，2007.
- 3) 山口 道代，土佐 理恵子，塚本 容子：VAP（人工呼吸器関連肺炎）予防のために：わが国でのBundle導入へ向けて，第23回日本環境感染学会，2008.
- 4) Yoko Tsukamoto：Hospice/Palliative care for HIV/AIDS patients in Japan – Current situation and future needs, XVII International AIDS Conference, 2008.
- 5) 高橋久江，立崎恵美子：高齢者の排尿障害を改善するための取り組み—排尿日誌の活用から—，日本老年泌尿器科学会，2008. 5. 24.
- 6) 北村美奈子：造血細胞移植後患者の経過の過程におけるQOL，日本造血細胞移植学会2008. 2. 28.
- 7) 北村美奈子，國分裕子他：移植後患者のQOL調査から性を考える（札幌北楡病院造血細胞移植センター），日本造血細胞移植学会，2008. 2. 28.

(5) 講演

- 1) 地域連携について．日本ホスピス緩和ケア協会教育セミナー．10月，札幌.
- 2) 患者を痛みから解放するということ～看護師の役割と責任～．十勝がん看護研究会．2月，帯広.
- 3) ホスピス・緩和ケアと音楽療法，音楽療法基礎講座2月，札幌.
- 4) がん看護に関わる看護師のサポート～Kanwa-n-netの活動と地域へのアウトリーチプログラムの活動から～．看護研究学会北海道地方会学術集会，シンポジスト．6月，札幌.
- 5) がん医療チームにおける看護師の役割とスペシャリストの育成，日本臨床薬学会 シンポジスト．9月，札幌.
- 6) 塚本容子：北海道感染管理セミナー，職員の感染管理行動を向上するために：行動学的アプローチを使って，2007年10月.
- 7) 塚本容子：札幌医科大学大学院修了生，研究支援ネットワーク事務局，概念分析の手法と実際，2007年11月.
- 8) 塚本容子：東京医療保健大学大学院 医療保健学研究科 感染制御看護学特論講義 2008年1月.
- 9) 塚本容子：HAICS主催 感染管理認定看護師のためのキャリアアップディベロップメント講座：感染看護—HIV/AIDS患者の看護と感染管理，2008年1

月.

- 10) 塚本容子：第10回札幌感染管理研究会 医療安全と感染管理ーアメリカの感染管理の最新情報，2008年2月.
- 11) 塚本容子：東京感染対策ナイトセミナー 職員の感染管理における予防行動を向上するために：社会認識モデルを用いて，2008年4月.
- 12) 塚本容子：3M主催 APICトピックセミナー：人工呼吸器感染予防について，2008年8月.
- 13) 塚本容子：北海道看護協会北空知支部研修会，患者安全と感染管理，2008年9月.
- 14) 塚本容子：ACTION WORKSHOP (AIDS 予防財団)，看護倫理ワークショップ，2008年9月.
- 15) 高橋久江：小樽掖済会病院看護部研修会：看護課程と看護診断，2008. 8～11

(6) 社会活動

- 1) 平成20年度厚生労働科学研究費補助金 第3次対がん総合戦略研究事業：
がん対策のための戦略研究：がん対策のための戦略研究臨床教育プログラム委員.
- 2) 日本緩和医療学会 疼痛ガイドライン作成委員.
- 3) 平成20年度 北海道専門分野（がん・糖尿病）看護師育成検討会委員.
- 4) 平成20年度 北海道がん対策推進協議会委員.
- 5) 日本ホスピス緩和ケア協会教育セミナー. ファシリテーター. 10月13, 14日 札幌.
- 6) 平成20年度 北海道看護研究学会座長. 4月 札幌.
- 7) 当別町民生児童委員協議会研修会. ホスピスについて. 5月15日 当別町.
- 8) 平成20年度がんプロフェッショナル養成プランがん看護（緩和ケア）インテンシブコース責任者.
- 9) がん患者の口腔ケア. 平成20年度がんプロフェッショナル養成プラン，がん看護インテンシブコース座長.
- 10) 事例から学ぶスピリチュアルケア. 平成20年度がんプロフェッショナル養成プラン，がん看護インテンシブコース座長 8月2日.
- 11) 札幌ホスピス緩和ケアネットワーク. ナースコンサルテーション事業. かようワークショップ「こんな時どうする～家族編」. 8月5日.
- 12) 塚本容子：北国の教壇から，INFECTION CONTROL（雑誌）2008年1月から3月.
- 13) Yoko Tsukamoto : Educational Seminar Modulator, Harm reduction and adherence, XVII International AIDS Conference, 2008.